



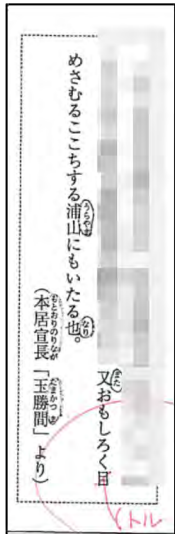
目には青葉 山ほととぎす 初がつお
山口素堂

【テスト(模試)校正漏れの事例 その2】

Vol.9 の続きです。

(3) 古典原文の間違い

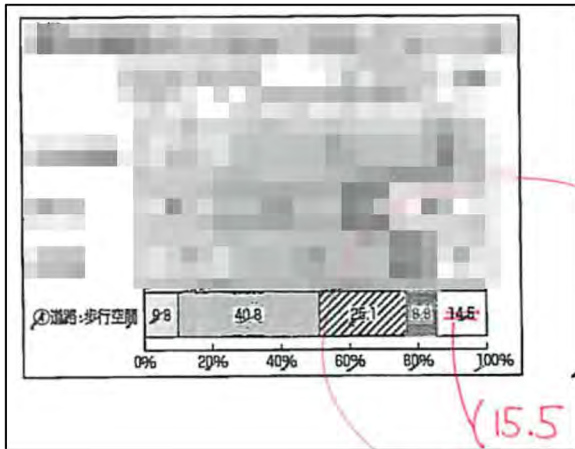
× 「目めさむる」 → ○ 「めさむる」



古典の場合、現代文と違って、照合用の原典を資料として提供してもらえないことが多いです。本案件でも原典の提供はありませんでしたが、インターネットで調べると、「目覚むる」「目さむる」「めさむる」のどれかになっています。

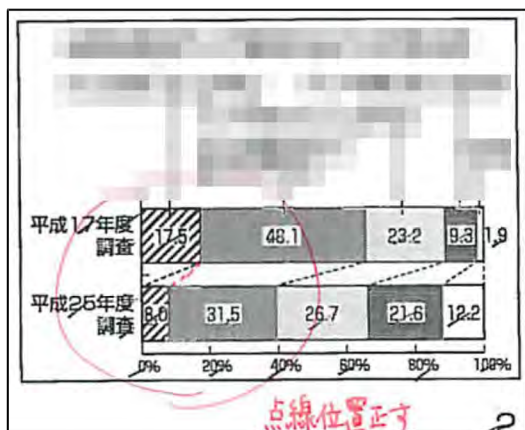
古文・漢文の場合、インターネットで調べれば、原典が出てくることが多いです。この校正業者は「目めさむる」の表記に違和感を感じて、インターネットなどで原典を照合してミスを発見できたのでしょう。

(4) グラフのミス



←グラフの合計が 100%にならない。

※小数点以下2位の四捨五入の関係で、合計が 99.9%や 99.8%になる場合は OK ですが、今回のケースは合計すると、99.0%になっていました。ただ、「その他」の部分が間違っているとは限らないので、このような場合は「合計が 99.0%になります。」と指摘してください。

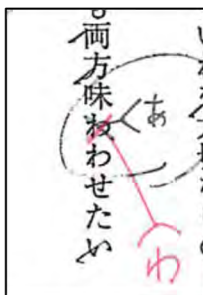


←帯グラフの引き出し線の位置が間違っている。

国語の場合、グラフが使われることは稀ですが、「稀」＝「不慣れ」だからこそ間違いが潜みやすいとも考えられますね。

「17.5」の右端からの点線は、「8.0」の右端に結ばれていなければなりません。

(5) 誤校正



これは、校正漏れではなく、誤校正の例です。

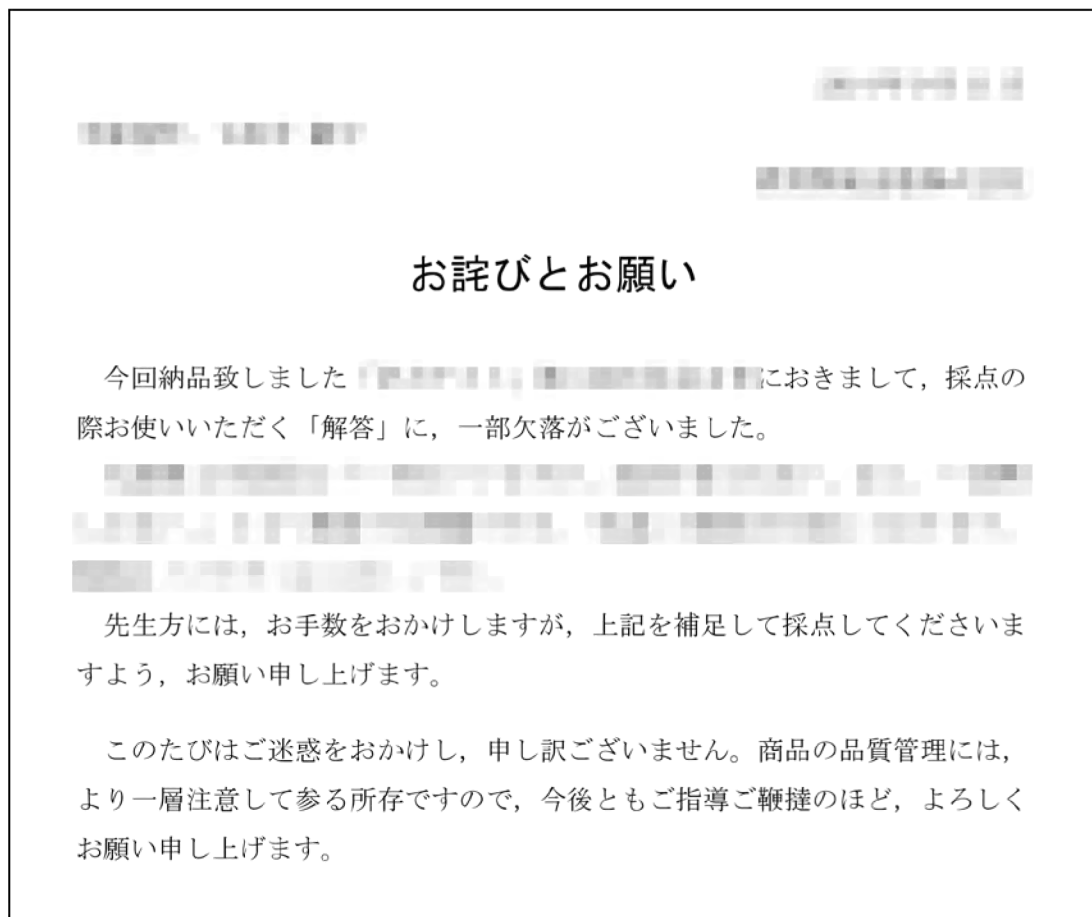
「味あわせたい」を「味あわせたい」と校正して納品しましたが、クライアントから「『味あわせたい』の方が正しい」と指摘を受けました。

調べてみると、確かに「味あう」「味あわせる」は「味わう」「味わわせる」の誤った形のように見えます。口語で一般的となっている表現でも、国語的には誤っている場合があります。

言い回しに違和感を感じたら、その違和感が正しいのかを確認する工程が必要ですね。社内の集約作業時にも気を配りたいと思います。

【訂正表が発生してしまった事例】

弊社が最終校正を担当して、訂正表が発生してしまった事例です。クライアントから報告を受けた時は、冷や汗が止まりませんでした。(=_=)



業務連絡
毎月末には請求書のご提出をお忘れのないようよろしくお願いいたします。

社内にハエが1匹ずつ出ます。苦勞して追っかけて退治をすると、また1匹出てきます。それを苦勞して追っかけて退治すると、次の1匹が……。どこから来るのか、なぜ1匹ずつなのか、謎です。



文責：沈黙のひつじ